



News Letter

No.3 2007.7 発行

contents

- 部門長挨拶・・・・・・・・・・・・・1
- 大学改革における産学連携・・・・・・・・・・・・・2
- センター活動報告・・・・・・・・・・・・・2
- 平成18年度共同研究受入・技術相談件数・・・・5
- スタッフ・客員教授紹介・・・・・・・・・・・・・6
- 地域医学共同研究部門運営委員会委員・・・・6



部門長挨拶

産学連携センター地域医学共同研究部門長 木下 芳一



産学連携センター地域医学共同研究部門の運営が始まってから3年間が経過いたしました。部門の業績も上がり始め、島根大学医学部の産学連携事業の顔となりつつあるのではないかと考えております。

この度長く私共の部門のコーディネーターをお勤めいただいております堀江先生が退職なさることとなりました。堀江先生は発酵、醸造の専門家ですが、あらゆる産業に通じておられ、本部門での産学連携研究事業の成立、運営に大きな力を発揮してこられました。堀江先生が退職されることは大変残念なことではあります。年齢と健康上の理由です。了解せざるを得ないと考えております。そこで堀江先生の後任を堀江先生同様に産業界に太いパイプと多くの産学連携事業の経験をお持ちの宮崎稔先生にお願いすることとなりました。宮崎先生は島根大学農学部を卒業され農学修士を取られ島根県内の多くの施設で病害虫に関する研究を行ってこられた農学技術の島根県のリーダーの一人です。

産学連携センターとしては宮崎先生というすばらしいコーディネーターを得て、ますます産学連携事業に力を注いでいきたいと考えております。多くの方々の御尽力、御援助をお願いいたします。

大学改革における産学連携

産学連携センター地域医学共同研究部門 教授 中村 守彦

財務省は国立大学法人の運営費交付金について、競争原理を導入して試算しました。科学研究費補助金の配分割合に基づくものですから、とても乱暴な試算です。これに各国立大学は敏感に反応しました。殆どの国立大学の経営が立ちゆかなくなるのですから当然でしょう。島根大学も学長名で「緊急声明」を出しています。しかしこの6月に「骨太」方針において「国立大学法人運営費交付金の改革」が明確に謳われたことにより、教育・研究面、大学改革等への取り組みに対する評価に基づき配分される方向が固まりました。

さて、このような厳しい大学改革の中で今後、産学連携の役割はどのように変わのでしょうか。そもそも企業は利潤を追求する団体であり、一方、大学の使命は「知」を創出し、次世代を育成することにあります。従って本来パートナーではない企業と大学が双方の違いを認めて歩み寄ることから産学連携が始まり、本学でも成果が上がってきています。これから産学連携は次の段階として、特に地方大学においては「量」から「質」へと変遷していくと考えられます。医学・医療福祉の観点から島根で「質」を向上させるには、「産学官民」の多角的・複眼的な視点に立った方策が必要です。

医療関連産業は極めて多様な成長産業であることから、地域振興に大きな期待が寄せられています。例えば、石見銀山が世界遺産登録されるなど歴史と文化に恵まれた島根の地で、医療・健康増進と観光を融合させた「医観連携」の実践も「知と技術」の社会還元につながるでしょう。また本誌では「地域医療」へ貢献する産学連携の成果を紹介しています。法人化により得た自由度をもっと有効に活用し、島根地域の特性を生かした戦略が求められます。

地方大学は「地域」と連携を計る一方で、「国際社会」も強く意識しなければなりません。農業社会から工業社会を経て知識社会へ突入した21世紀において、グローバルな感性が欠如して大学の発展は決して望めません。何より、パートナーである「産業界」は随分前から国際進出して欧米諸国に根付き、そして成功を少なからず収めています。閣議決定された「イノベーション2025」によって、地方大学を含めた“Global University”構想が加速することでしょう。

これから迎える「知の大競争」の時代にあって、地域と国際社会を視野に入れた産学連携活動を進めることが重要です。教職員・学生の皆様の産学連携への一層のご理解とご支援をお願いいたします。

センター活動報告

知的財産セミナー

日時：平成18年10月17日
場所：島根大学医学部臨床大講堂
講師：島根大学産学連携センター知的財産創活部門
教授 阿久戸 敬治
参加者：34名（本学教職員、大学院生等）

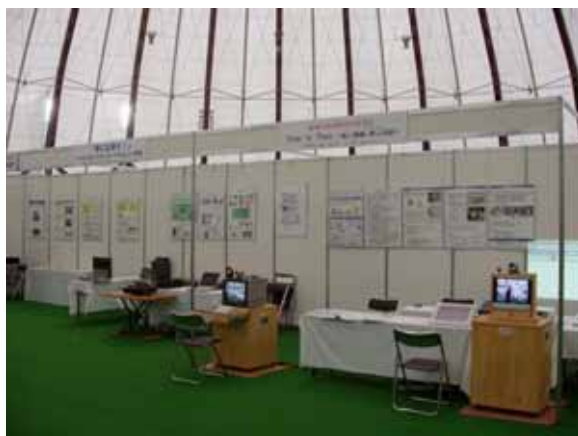
出雲キャンパスの教職員・学生を対象に知的財産セミナーを開催しました。セミナーでは、島根大学における「知的財産の取り扱い」に関する規定や「特許制度の仕組み」などが分かりやすく紹介されました。



講義風景

◆ 21世紀出雲産業見本市2006 ◆

日時：平成18年11月11日、12日
場所：出雲ドーム
開催：主催 出雲市
後援 島根大学産学連携センター 他
出展：「マイクロファクトリーでやさしい手術」
医農工連携
(整形外科、材料プロセス、生物科学)
「エージェント型多目的マルチメディア
双方向通信システム『ミュー太』」
医療情報部
「桑葉の抗動脈硬化作用・機能米の抗肥満、
抗糖尿病作用」
環境予防医学講座
「魚油添加飼料給与による無魚臭なDHA
強化烏骨鶏卵の生産」
環境生理学



展示風景

◆ 平成18年度特許セミナー ◆

日時：平成19年1月13日
場所：産学連携センター地域医学共同研究部門
4階 会議室
講師：(社)発明協会広島県支部 参与 坂本 重道氏
三枝国際特許事務所 弁理士 中野 睦子氏
参加者：14名(本学教職員、大学院生等)

講師に発明協会(広島支部)から坂本重道参与、三枝特許事務所より中野睦子弁理士を迎えて分かりやすいセミナーが展開されました。

午前(基礎編)と午後(医学領域を対象にした応用編)ともに活発な質疑応答があり、有益なセミナーとなりました。



セミナー風景

◆ 著作権等に関するe-ラーニング勉強会 ◆

日時：平成19年5月31日
場所：本部棟第二会議室
講師：島根大学産学連携センター
知的財産創活部門
教授 阿久戸 敬治
参加者：15名(本学教職員)



勉強会風景

◆ 中国地域産学官・クラスターコラボレーションシンポジウム ◆

日時：平成19年6月7日、8日
場所：くにびきメッセ(松江市)
主催：中国地域産学官コラボレーション会議、中国地域産業クラスターフォーラム

◆ 第6回 産学官連携推進会議 ◆

日時：平成19年6月16日、17日
場所：国立京都国際会館
主催：内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、
日本経済団体連合会、日本学術会議
展示：「骨には骨を！マイクロファクトリーで
やさしい手術」
医学部整形外科、総合理工学部



展示会場にて

◆ 松江東高校の生徒が産学連携センターで体験学習 ◆

日時：平成19年1月27日

本学の「フィールドワーク学習教育プロジェクト」の一環として、産学連携センター企画の体験学習が行われ、スーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）指定校の松江東高等学校の生徒（2年生、17名）が地域医学共同研究部門（出雲キャンパス）を訪れました。「双方向通信ロボット開発（医療情報・花田助教授）」、「骨ネジ加工による再生医療（整形外科・内尾教授、森助教授）」、「環境アレルギーに対する調湿木炭の敷設効果（皮膚科・森田教授）」、「機能性食品開発と代替医療（地域医学・中村教授）」について、研究開発した各教員が講演と実習を担当しました。本事業を通じた「高大連携」により、地元高校生が産学連携による実用化研究を体験する良い機会となりました。



双方向通信ロボット開発の実習



機能性食品開発の体験実習



骨ネジ加工による再生医療の実習



調湿木炭の敷設効果の実習

◆ 益田高校の生徒が産学連携センターで体験学習 ◆

日 時：平成19年7月4日

スーパーサイエンス・ハイスクール指定校である島根県立益田高校の1年生28名（他引率2名）が、7月4日（水）、島根大学の産学連携センター地域医学共同研究部門（出雲キャンパス）を訪れました。これは本学の「フィールド学習教育プログラム」として同センターが企画したもので、昨年に続き2度目となります。

午前の部では、島根大学が実践してきた産学連携の研究成果を紹介し、続いて産学連携により実用化した医療機器等を見学しました。

午後の部では、共同研究により開発した「双方向通信ロボット」を使用して、医師役と患者役の生徒が模擬通信により遠隔地医療補助を体験しました。

体験実習を終えた生徒たちは「地元の島根大学で、こんなすごい研究があると知って驚いた」「最先端の医学にふれることができた」など感想を述べました。



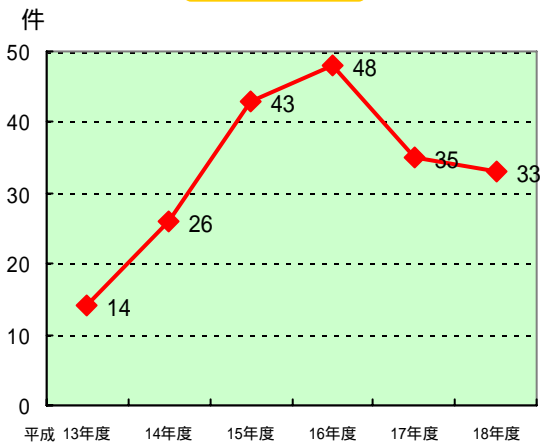
遠隔地医療補助の体験をする生徒たち



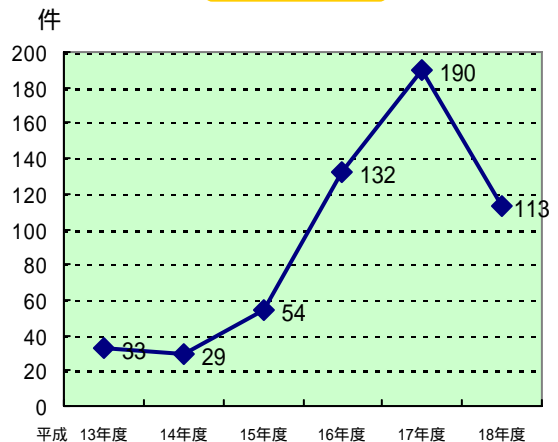
機能性食品開発に必要な動物実験の説明

平成18年度共同研究受入・技術相談件数（出雲キャンパス）

共同研究



技術相談



スタッフ・客員教授紹介

《部門長》	木下 芳一（第2内科学教授・兼任）
《教授》	中村 守彦
《産学官連携コーディネーター》	宮崎 稔
《事務補佐員》	山崎 享子
《技能補佐員》	小村 里美
《医学部大学院生》	水津 拓三
《客員教授》	堀江 修二
	中野 睦子（三枝国際特許事務所 弁理士）

地域医学共同研究部門運営委員会委員

《部門長》	第2内科学	教授	木下 芳一
	地域医学共同研究部門	教授	中村 守彦
《産学連携コアメンバー》	病態病理学	教授	並河 徹
	公衆衛生学	教授	藤田 委由
	小児科学	教授	山口 清次
	整形外科学	教授	内尾 祐司
	皮膚科学	教授	森田 栄伸
	地域看護学	教授	中谷 久恵
	医療情報部	准教授	花田 英輔

News Letter NO.3 2007年7月発行

島根大学産学連携センター地域医学共同研究部門 〒693-8501島根県出雲市塩冶町223-8
TEL 0853-20-2912 FAX 0853-20-2913 E-mail cmrc@med.shimane-u.ac.jp